



さくらの森

編集・発行元 社会福祉法人京悠会 埼玉県所沢市下富1206-1 TEL04-2990-1133



思いおもいの盆おどり 彼の人に逢いたい

『一度とない人生だから』 坂村真民

二度とない人生だから
一輪の花にも 無限の愛を そそいでゆこう
一羽の鳥の声にも 無心の耳を かたむけてゆこう

二度とない人生だから
一匹のおろぎでも ふみころさないように
ころしてゆこう
どんなにか よろこぶことだろう

二度とない人生だから
一ぺんでも多く 便りをしよう
返事は必ず 書くことにしよう

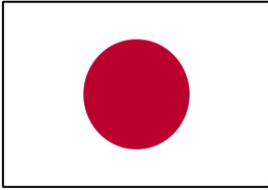
二度とない人生だから
まず一番身近な者たちに できるだけのことをしよう
貧しいけれど こころ豊かに接してゆこう

二度とない人生だから
つゆくさのつゆにも めぐりあいのふしぎを思い
足をとどめてみつめてゆこう

二度とない人生だから
のぼる日 しずむ日 まるい月 かけてゆく月
四季それぞれの 星々の光にふれて
わがこころを あらいきよめてゆこう

二度とない人生だから
戦争のない世の 実現に努力し
そういう詩を 一遍でも多く 作ってゆこう
わたしが死んだら あとをついでくれる
若い人たちのために
この大願を 書きつづけてゆこう

技能実習生受け入れ面接の実施



場所 インドネシア・ジャカルタ
フェアモントホテルにて
報告 円野介護リーダー
介護福祉士 柳平 貴子
日時 令和元年6月30日～7月3日



希望と不安を抱きながら日本語の勉強に熱心なインドネシアの若者たち

6月30日から4日間、技能実習候補生の面談のため、インドネシアのジャカルタを訪問しました。

さまざまな違いを痛感

インドネシアの文化、環境、食生活などをみることで、日本との違いを痛感しました。また、インドネシアは赤道に近いので、一年を通して蒸し暑く、気温差の少ない国です。それと比較して、日本の寒暖差がある生活に慣れるまでには、時間がかかると感じました。

最終日にジャカルタの中心部を離れた時、経済的にも環境的にも開発は遅れており、都市部と地方の格差を強く感じました。

生徒18人と面接し、笑顔が多く人柄も穏やかな印象を受けました。彼女たちは、日本で仕事をするために、ジャカルタで日本語能力検定資格の取得に向けて頑張っています。

気配りを大切に

若くして親元を離れて外国で働くことは、希望とともに沢山の不安があると思います。

他国の方を迎えるにあたり、視察で分かった違いに気を配りながら、円野で受け入れ体制を整えます。また、彼女たちの希望が実現できるようにメンタルケアをしながら、みんなで一丸となり応援していきたいと思っています。

「つれづれなるままに ～認知症を語る～」

【第3回】ヒトは、他人のことを認知症と言えるでしょうか…その2

◆「認知症」という言葉・病名ではない 様々な原因で認知機能が低下し、 生活に支障がでている状態のこと

前回に引き続き、もう少し“認知症”という言葉のことを考えてみようと思います。海外では「認知症(Dementia)」という言葉は、すでに使われないようになってきており、新たに「神経認知障害群(neurocognitive disorders: NCD)」という言葉が導入されています。

さて、皆さん、「認知症」というと病名のことだと思いませんか？

混同されて使われていますが、実は「認知症」という言葉は、病名ではありません。正確には、さまざまな原因により認知機能が低下し、生活に支障が出ている状態

(6か月以上継続している状態)のことを呼びます。つまり状態や症状、医学用語では「病態」のことを指し示している訳です。

「認知症」には70種以上の疾患が含まれ、治療可能なものも

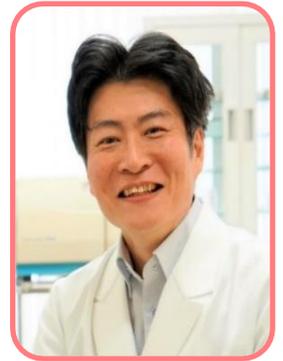
そのため「認知症」には、様々な原因や病態が含まれることとなります。約70種類以上もの疾患が含まれ、なかには治療可能なものもあります。治療可能な認知症は、正常圧水頭症や甲状腺機能亢進症、ビタミンB12欠乏症などが含まれます。そのため、症状のある方は早めにきちんと病院で検査を受けるようお願いしています。

しかしながら、「認知症」と言われてしまうとやはりご本人にはショックですし、ご家族の心情を考えると計り知れないものがあります。そこで受診を控えてしまう方もいらっしゃいます。

「認知症」という言葉 人格や尊厳まで否定してしまうのは問題

そう考えますと、認知症という言葉にはどうしてもその人の人格や尊厳までを否定してしまうくらいの重い意味合いがあり、そういった言葉で決めつけてしまうのは非常に問題があると考えています。

大田秀隆（おおたひでたか）
秋田大学高齢者医療先端研究センター長・教授
72年生まれ。福岡市出身
東京大学大学院医学系研究科加齢医学専攻終了（医学博士）
日本医療研究開発機構臨床研究課主幹
厚生労働省老健局などを経て
18年6月から現職



例えば、今、広く行われるようになってきている認知症カフェやサロンも、認知症という言葉が入るとご本人もご家族も参加しづらくなるという問題が起きているのです。本当に本人は何も認知できていないのでしょうか？

私はそうは思いません。爽快や不快については、ちゃんと認知しています。意思も経験もあり、表面的な状態だけで本人を判断してはいけないということだと思います。

“自分もいずれ認知症状態になる可能性が高い”ことを知ろう

85歳を超えると約40%もの人がそういう状態になるわけですから、他人のことを認知症というよりも、“自分もいずれそういう状態になる可能性が高い”ことを知って、その人のことを十分に理解することが大切だと思います。お互いに助け合い、支えあっていく姿勢こそ、これからの超高齢社会を迎えるにあたって必要なことだと思います。

今回は、『認知症の気付き』について書いてみようと思います。（つづく）

編集長から一口コメント

長年「痴呆症」などという言葉が定着していましたが、平成14年に「認知症」という言葉に統一され、いまや認知症という表現が行政でも民間の間でも広く行き渡っています。

でも大田医師がご指摘されるように、「認知症」という言葉には、その人の人格や尊厳までを否定してしまうくらいの重い意味合いがあり、そういった言葉で決めつけてしまうのは非常に問題があると考えています」と語っておられます。

言われてみれば、なるほどと納得できます。お互いに知恵を出しあい、その人の人格や尊厳を守るという姿勢で、いい言葉を見出していききたいものです。



円野 盆踊り大会



8月の行事

真和の森 盆踊り大会



美味しいものを食べながらこぼれる笑顔

笑顔あふれ、楽しさいっぱいの盆踊りでした



それ♪ それ♪ それ♪



御歳最高齢 それでも盆踊りは楽しい



Kさんは突然立ち上がり、踊り始めました。若い時には日本舞踊の仕事がされていたようで、普段はご自分では動けない方でしたが、最後の踊りを嬉しそうに楽しめましたが、この日から4日後静かに永眠されました。



お父さんも、会長さんも、僕も、私もよいよい!



手作りお神輿、わっしょい! わっしょい!

真和の森 敬老会



おめでとうございます☺ はい! チーズ!



真和の森浴衣美人 勢ぞろい!



踊りと歌は私たちにお任せ!



円野の浴衣美人 勢ぞろい!



100歳過ぎてても元気
素晴らしいスピーチをいただきました



チロリン♪チロリン♪音色に聞き惚れています



円野 仕事から得た教訓

～失敗から学び、それを活かすこと～

介護福祉士 津留 朱美

障害児の学童保育の仕事から障害者施設で障害者と関わることになり、円野にお世話になって早いもので5年半になります。

障害者についていろいろと知っているつもりでしたが、チョットしたミスで利用者様に大きな負担を掛けることにつながることを痛感し、失敗から改めて学び、それをみんなで共有し活かしていくことの大切さを実感しています。

あ！間違えた！！

何事にも慣れてきたことで生まれる失敗があります。

ある日のことです。夜勤業務の最中に、A様へ就寝薬を服用させた後、ふと薬ケースをみると、それは他の利用者様のものでした。「あっ間違えた！」……

A様から声をかけられたので、思わず返事をしながら会話の流れの中で、服用させてしまいました。いつもの手順を守らなかったのです。

すぐに吐き出して頂くように伝えましたが、飲み込んだ後で手遅れでした。

**円野における服薬数
年間5万3千回以上**

手順を守る大切さを再認識

その後、震える手で飲ませた薬の処方箋をファイルから探しましたが、焦っていたのででしょうか見つかりませんでした。

もう一人の夜勤者に報告し、医務室にある処方箋と一緒に探してもらいました。それから上司、看護師に連絡をして指示をもらいました。

誤薬を知ったA様は不安で眠れない様子でした。私は夜勤中、投薬の手順を守ることなどを考えながら後悔していました。



利用者様が描いた私の似顔絵

言い訳を反省に……

次の朝、誤薬の原因について、たくさんの言い訳をする自分がいました。私は自己嫌悪に落ちてしまいました。気持ちを改めて反省しながら事故報告書を書きました。

気のゆるみ、思い込み、確認不足で起きてしまった事故でした。

二日後、重い気持ちで出勤すると、すでに事故対策会議が開かれ、薬ケースには顔写真が貼られていました。他にも、同僚からいろいろな意見が出てきました。

私の起こした失敗を個人の問題としないで、施設全体の課題として考えていてくれました。

心、暖かい仲間がいて……

「この失敗を経験の浅い後輩に伝えて欲しい。誰でも起こりうることだから。」と上司の言葉。

誰にでも失敗はあります。その後の対応を一緒に考えながら気遣ってくれる仲間がいるから私は前に進むことができました。

詳しい記録を残すことにより、情報を共有し、励まし合いながら、介護の仕事が好きになっていく自分がいました。今後、この教訓を活かし、利用者様と楽しく過ごしていきたいと思います。

真和の森 こころの相続

～花子様（仮名 91歳）の最期に寄り添って～

フロアリーダー / 介護福祉士・介護支援専門員 川俣 美香



真和の森では積極的に看取りケアに取り組んでいます。その中でも記憶に残る花子様の最期についてご紹介を致します。

花子様はご家族が見守られるなか、穏やかに旅立たれ、その瞬間にわたしも立ち会わせて頂きました。尊い体験をさせて頂いたお話です。

花子様との出会い

花子様はご家族の方が自宅で介護をされていましたが、体調が悪くなり自宅での介護が厳しくなったために真和の森に来られました。

花子様は、穏やかな性格の方で、施設の利用者様とも楽しく生活されているご様子で、職員に対しても「いつもありがとう」と声をかけてくださることが多く、職員も花子様が大好きでした。

花子様の最期はどこで・・・

2年位過ぎたころから、食事を残されることが増え、トイレに行くことも難しくなりました。だんだんと車椅子の暮らしからベッド上での時間が長くなり、お話ができる回数が減っていきました。ご家族も度々来られていましたので、花子様の体力が落ちている様子を感じ取っておられました。

いよいよ花子様の最期を考える時になり、ご家族と話し合いを重ねましたが、とても悩んでおられる様子でした。

ある日、ご家族から、できれば真和の森で最期を迎えたいとの申し出がありました。ご本人とも話し合われ、住み慣れたところで、一緒に暮らしてきた仲間のもとで最期を迎えたいということになったようです。

看取り介護のはじまり

私たち職員は、花子様の看取りケアに入り、ご家族同席のもとカンファレンスを重ねました。人の最期はどうあるべきか、お食事はどのように進めるべきか、ご家族のメンタルケアはどのようにサポートしていくか等、課題は山積みでした。

その中で一番大切に考えたのは花子様のお食事でした。日頃はお食事をできるだけ召し上がって頂くように努めてまいりましたが、それ自体が花子様にとって負担になっていくのではないかと気が付きました。

それからは、ご本人の意思を尊重しながら、体力が落ちていく中で徐々にではありますが、好みのものを召し上がられるように工夫をしていきました。



最後の呼吸

最期の日突然やってきました。ちょうどご家族が面会に来られていてしばらく時間が過ぎた頃、慌たしいご様子で「母の様子が、おかしい」と私が呼ばれました。すぐにはかけつくと、すでに下顎呼吸をしていてその呼吸がどんどんとゆっくりになっていき、何度も呼びかけるご家族の声に応えてくれるように、とまりそうな呼吸がゆっくりと続いて、そしてゆっくりと大きく息を吸い込んだ後、「ふうー」と長く息を吐きだしました・・・それが最期の呼吸でした。

ご家族とわたしはもう一度呼吸をされるのではないかと思い、しばらく呆然と見つめていました。でもそれが最期の呼吸でした。この大きな呼吸が大往生の証なのだ学びました。本当に穏やかで、苦しみのない最期でした。



一般的には、人の最期に立ち会うことはそんなに多くはないと思いますが、こんなに穏やかで、自然な死があるのだと学びました。それまでのわたしは、一日でも長く生きることが重要だと考えていましたが、花子様の御臨終に立ち会わせて頂いて、長く生きることが重要なのではなく、いかにその人らしく生きるかが重要なのだと学びました。

今でも自分が担当しているご利用者様を見送ることは心が痛みます。慣れるものでもありません。そして終末期を迎えるご本人やご家族にどのように向き合うかがわたしにとって大きく変わった看取りケアでした。

クリニック建設工事に際し地鎮祭を開催

令和元年9月14日10:00より、クリニック建設予定地（所沢市下富）にて、京悠会役職員、建設会社、設計事務所などの関係者が参列し、地鎮祭が無事執り行われました。神職様の、体の芯に響くような警蹕を拝聴しつつ、厳肅な雰囲気の中工事の無事を祈願させていただきました。

また、前島評議員の計らいで、クリニック事業の発展を祈念した大黒舞を披露していただきました。



今後のスケジュール



◆ 円野 ◆

行事

- 10月19日 飯能障害者スポーツ大会
- 10月25日 身障協交流レク
- 11月9,10日 身障協文化作品展
- 11月30日～12月4日 飯能市アート作品展
- 12月14日 忘年会（クリスマス会）

職員研修

- 10月10,11日 身障協職員研修（未定）
- 10月22日 冬期に流行する感染症
- 11月26日 接遇について
- 11月28日 権利擁護・虐待防止

◆ 真和の森 ◆

行事

- 10月2日 ミニ運動会
- 11月6日 紅葉狩り
- 12月24日 クリスマス会



職員研修

- 10月5日 新入職員研修
- 10月16日 認知症、看取りについて
- 11月13日 冬季感染症対策について
- 12月11日 身体拘束・虐待防止について

編集後記

ここに「さくらの森」第7号をお届けします。1～8ページの紙面をご覧になって、どのような感想を持たれたでしょうか。いつもながら内容の豊富な記事、読み応えのある記事を目指しておりますが、今号は職員の体験談を記事にしました。施設での日々の苦労や努力が一つひとつ実り、入所者様やそのご家族様とのふれあいの中に生まれる「信頼」や職員間の良き「仲間意識」を感じ取っていただけたら、編集担当として嬉しい限りです。

障害者支援施設 円野
〒357-0011 埼玉県飯能市川崎458
TEL042-975-3300 FAX042-975-3311
最寄り駅：高麗川駅（八高線）

特別養護老人ホーム 真和の森
〒359-0001 埼玉県所沢市下富1206-1
TEL04-2990-1133 FAX04-2990-1144
最寄り駅：新所沢駅（西武新宿線）